

令和2年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	事業 評価	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)			評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題		
II-1-(4)-④ 総合的な災害対策の推進	1	⑥ ⑬ ⑰	浸水対策事業	下水道計画課	近年、集中的な豪雨に起因する浸水被害が増加している。浸水被害を抑制するため、公共下水道の整備を進め、流域全体の浸水に対する安全度の向上を図る。	浸水被害の抑制 ※中期目標改訂 (R3年度目標設定時)	—	目標	—	—	重点整備地区(9地区)の雨水整備(R7年度)	2,860,000	3,509,943	3,142,748	165,200	順調	雨水整備率について、目標通り達成(73.0%)したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 雨水整備が予定どおり進み、浸水被害の抑制に寄与していると考えるため、「順調」と判断。 【課題】 浸水被害の抑制に向け、引き続き効率的な整備を行う必要がある。	今後も整備箇所ごとの現場の状況に応じた最も経済的かつ効率的な方法を検討し、整備を行っていく。
II-1-(4)-⑤ 公共施設などの耐震化の推進	2	⑥ ⑨ ⑬	地震対策事業(水道施設)	計画課	大規模な地震が発生した場合においても、安全で安定的な給水を確保するため水道施設の耐震化を実施するもの。	浄水施設耐震化率 配水池耐震施設率 ※中期目標改訂 (R3年度目標設定時)	33.2% 54.1% (R1年度)	目標	浄水 33.2% 配水池 54.1%	59.2% 54.1%	浄水施設耐震化率77.5%(R10年度) 配水池耐震施設率60.1%(R7年度)	261,342	223,430	38,993	4,610	順調	令和2年度の目標である水道施設耐震化箇所を概ね予定どおり発注し、耐震補強を進めているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 中期目標に対して概ね順調に耐震化が進んでいるため、「順調」と判断。 【課題】 難易度の高い耐震化工事を着実に推進させるため、工程管理をより確実に行う必要がある。	水道施設及び下水道施設について、引き続き、計画どおり耐震化を実施していく。
	3	⑥ ⑨ ⑬	地震対策事業(下水道施設)	施設課	大規模な地震が発生した場合においても、最低限の下水処理が行えるように下水道施設の耐震化を実施するもの。浄化センターに近接するポンプ場や災害拠点病院などから排水を受ける重要な15ポンプ場の耐震化に取り組む。	下水道施設の耐震化率(ポンプ場、浄化センター水処理施設)	0.0%(H26年度)	目標	14.2%	15.3%	18.2%(R6年度)	340,000	429,098	750,619	10,690	順調	工事の難易度が高いため施設毎に耐震化工事の進捗にばらつきはあるが、概ね予定通りの進捗であるため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 【課題】 難易度の高い耐震化工事を着実に推進させるため、工程管理をより確実に行う必要がある。	
II-3-(4)-② 国際協力・交流の推進	4	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑰	上下水道技術の国際協力	海外事業課	アジアを中心とした国や地域(カンボジア、ベトナム国ハイフォン市など)への職員派遣や海外からの研修員受入などにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献する。併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与する。	国際技術協力でアジアの発展に貢献	—	目標	—	—	発展途上国の技術向上	46,413	54	12,534	2,900	遅れ	世界各国から研修生を継続的に受け入れているが(目標:255人、実績:20人)、新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限のため「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限のため、「遅れ」と判断。 【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮しながら、今後も国等関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに効率的、効果的な事業実施を図る必要がある。	日明浄化センター(ビジターセンター)などの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受け入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。

令和2年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度	人件費 （目安） 金額 （千円）	事業 評価	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）			決算額 （千円）	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
Ⅲ-1-(3)-① 安全で安定しておいしく飲む水道の整備	5	⑥ ⑨ ⑪ ⑬	配水管更新事業	計画課	老朽化した配水管を計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出水の解消や管破損事故を防止し、安全で安定的な給水を確保する。	安全で安定的な給水の確保	—	目標 —	—	40年以上経過した普通・高級鑄鉄製の配水管がない状態（R2年度）	4,668,886	4,982,144	5,002,096	296,125	順調	令和2年度目標である配水管更新目標50kmに対し、39.6kmの配水管更新工事を終えており、概ね目標近く更新を進めているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業が予定どおり進んでいるため、「順調」と判断。  【課題】 学校の直結式給水の推進について、給水管の増口径が必要な学校への助成を行いながら事業を継続することとし、今後も、教育委員会と調整しながら直結化を推進していく。	配水管更新事業について、第5期更新計画に基づき、計画どおり更新を実施していく。 学校の直結式給水の推進について、給水管の増口径が必要な学校への助成を行いながら事業を継続することとし、今後も、教育委員会と調整しながら直結化を推進していく。
	6	⑥	アクアフレッシュ事業（学校の直結式給水の推進）	配水管課	水槽式給水の小中学校等では、近年の児童、生徒数減による使用水量の減少や、休日に水を使用しないことなどにより、貯水槽内に水が滞留し、水のおいしさが低減する状況にある。そこで、市立小中学校等の直結式給水への切替えを推進するため、直結化の支援を行う。	学校直結化累計数 ※対象学校数は平成30年度202校、令和元年度200校（学校統合により直結化校2校減）	153校 (H26年度)	目標 168 校	168 校	166校以上（R2年度）	8,000	0	8,000	2,950	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は中止となったものの、中期目標は達成したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業が予定どおり進んでいるため、「順調」と判断。  【課題】 学校の直結式給水の推進について、学校の改築等に併せて直結化（増口径）を実施することとしており、教育委員会と調整が必要。	配水管更新事業について、第5期更新計画に基づき、計画どおり更新を実施していく。 学校の直結式給水の推進について、給水管の増口径が必要な学校への助成を行いながら事業を継続することとし、今後も、教育委員会と調整しながら直結化を推進していく。
Ⅲ-1-(3)-③ 快適で良質な生活環境をつくる下水道の整備	7	⑥ ⑪ ⑬ ⑭	合流式下水道改善事業	下水道計画課	合流式下水道で整備された地区は、大雨時に雨水で希釈された未処理下水の一部が川や海に流れ出ることがある。放流先の汚濁負荷を分流式下水道並みに軽減するため、合流式下水道の改善に努め、良好な水環境をつくる。	良好な水環境の実現（合流改善達成率 R5：100%）	—	目標 —	—	合流改善の達成（100%）（R5年度）	1,824,000	1,881,387	1,772,188	121,150	順調	合流改善達成率について目標通り達成（77.0%）したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 対策が目標どおり進み、合流式下水道の改善が進んだため、「順調」と判断。  【課題】 浸水対策と合流改善を併せ、一体的に取り組むなど、効率的な整備を行う必要がある。	今後も整備箇所ごとの現場の状況に応じた最も経済的な方法を検討し、整備を行っていく。
Ⅲ-1-(3)-④ 高度情報化社会への対応	8	⑥ ⑨	工業用水道のスマート検針導入事業	営業課	工業用水道の検針は、毎月月末に関係者（受水会社）の許可や立会のうえ、検針員が行っている。さらに、現地での用品取替等が発生し、業務が煩雑になっている。そこで、受水会社へのサービスの向上及び当局の業務効率化を図るため、スマート検針を導入する。	スマート検針システム導入会社数（累計）  ※工業用水道受水会社数全71社	6社 (H30年度)	目標 34 社	71 社	71社（R2年度）	37,400	36,976	22,559	3,615	順調	計画通り、令和3年3月までに予定していた77箇所への機器の設置を完了し、令和3年4月から運用開始できたため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 令和3年度からの本格運用に向け必要な機器の設置が進んだため、「順調」と判断。  【課題】 令和3年度からの本格運用に円滑に移行する必要がある。	適切に保守・運用を行うとともに、受水会社の追加等にも対応していく。

令和2年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題		
VI-3-(3)-④ 下水汚泥などの循環利用	9	⑨ ⑩ ⑫	下水道資源の有効利用	施設課	下水汚泥のバイオマスエネルギーとしての燃料化や、さまざまな資源の有効利用を行う。 ※中期目標改訂(R3年度目標設定時)	下水汚泥の有効利用率	100% (R1年度)	目標 99.0 %	実績 100 %	達成率 101.0 %	100% (毎年度)	2,118,046	1,780,872	1,594,637	127,275	順調	下水汚泥の有効利用率の目標99%に対し、100%を達成したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業が予定どおり進み、下水汚泥などの循環利用につながっていることから「順調」と判断。 【課題】 資源化率を維持するため、汚泥燃料化施設の安定稼働を行う必要がある。	引き続き、下水道資源を有効利用していく。
VII-1-(3)-② 上下水道、消防、交通などの分野における国際協力の推進	10	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬	上下水道技術の国際協力	海外事業課	アジアを中心とした国や地域（カンボジア、ベトナム国ハイフォン市など）への職員派遣や海外からの研修員受入などにより、本市の浄水技術や漏水削減などの技術の移転、下水道の計画づくりや維持管理等に関する指導を行うことで、海外の技術者の育成を進め、世界の水環境改善に貢献する。 併せて、国際技術協力を通じ、技術の継承や実務能力の向上など、本市職員の育成にも寄与する。	国際技術協力でアジアの発展に貢献	—	目標	—	—	—	46,413	54	12,534	2,900	遅れ	世界各国から研修生を継続的に受け入れているが（目標：255人、実績：20人）、新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限のため「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 国際技術協力事業については、新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限のため、目標を下回っている。 海外水ビジネスについては、北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にして、カンボジア、ベトナムなどでビジネス案件を引き続き受注している。 以上のことから、「やや遅れ」と判断。	国際協力事業については、日明浄化センター（ビクターセンター）などの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受け入れ、効果的な国際技術協力事業を実施する。 海外水ビジネスについては、北九州市海外水ビジネス推進協議会との連携を深めながら、国際戦略拠点を活用し、本市及び市内企業の上下水道に係る技術や製品をアジアを中心としたビジネス対象国に発信するとともに、アジア低炭素化センターと協力しつつ、受注拡大を目指す。
								実績	—	—	—									
	11	① ③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬	海外水ビジネスの推進	海外事業課	上下水道分野などの海外水ビジネスは、今後も人口増加や都市化の進展により市場の拡大が見込まれ、国の成長戦略においても、水分野等のインフラシステム輸出を推進するとされている。本市では、平成22年に「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。官民が有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営まで、地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開。併せて「ウォータープラザ北九州」を活用し、水ビジネスに向けた取組を進める。	上下水道に関する水ビジネス案件の受注	—	目標	—	—	—	106,712	34,401	56,462	115,100	順調	現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通じて築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋げている。 実績として、令和2年度はカンボジアでビジネス案件を5件継続受注したため、「順調」と判断。	やや遅れ	【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮しながら、国際協力事業については、今後も国等関係機関のスキームを利用するなど本市のコスト削減とともに効果的、効果的な事業実施を図る必要がある。 海外水ビジネスについては、今後も協議会と連携し、事業に取り組むことで地元経済の活性化を図る必要がある。	
								実績	2,321 千円	4,227 千円	0 千円									達成率
						下水道に関する水ビジネス案件の受注	—	目標	—	—	—									

令和2年度 行政評価の取組結果（上下水道局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度	人件費 （目安）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）	決算額 （千円）	金額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題
VII-2-(1)-① アジア低炭素化センターを核とした都市インフラビジネスの推進	12	③ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬	海外水ビジネスの推進	海外事業課	上下水道分野などの海外水ビジネスは、今後も人口増加や都市化の進展により市場の拡大が見込まれ、国の成長戦略においても、水分野等のインフラシステム輸出を推進するとされている。本市では、平成22年に「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立。官民が有する技術力やノウハウを結集し、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営まで、地場企業による水ビジネス案件の受注を目指して事業を展開。併せて「ウォータープラザ北九州」を活用し、水ビジネスに向けた取組を進める。	上水道に関する水ビジネス案件の受注	目標	—	—	海外水ビジネスを通じた地元企業の振興と国際貢献	106,712	34,401	56,462	115,100	順調	現在カンボジアやベトナムを中心に進めている国際技術協力を通して築いた信頼関係を土台に、官民一体となり、海外水ビジネス案件や北九州市海外水ビジネス推進協議会会員企業への受注に繋げている。 実績として、令和2年度はカンボジアでビジネス案件を5件継続受注したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 北九州市海外水ビジネス推進協議会を軸にして、カンボジア、ベトナムなどでビジネス案件を引き続き受注していることから、「順調」と判断。  【課題】 今後も協議会と連携し、事業に取り組むことで地元経済の活性化を図る必要がある。	北九州市海外水ビジネス推進協議会との連携を深めながら、国際戦略拠点を活用し、本市及び市内企業の上下水道に係る技術や製品をアジアを中心としたビジネス対象国に発信するとともに、アジア低炭素化センターと協力しつつ、受注拡大を目指す。
							実績	11,850 千円	4,227 千円										
							達成率	—	—										
						下水道に関する水ビジネス案件の受注	目標	—	—	海外水ビジネスを通じた地元企業の振興と国際貢献									
							実績	2,321 千円	0 千円										
							達成率	—	—										